

科目名	日本文化史（思想史）					単位	2.0
担当教員	中條 敦仁						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	1	授業番号	2417

●授業のテーマ

日本思想の根底に何があるのか—身近な文化から考える—

●到達目標

1. 講義内容を理解し、日本の思想について自身の考えを持つことができる。
2. あらゆる角度から日本文化に興味を持つことができる。
3. 講義内容をまとめ、報告書を作成することができる。

●学習内容(授業概要)

「日本文化の根底に体系的意識はあるのか」を受講生全員で考えたい。

まず手始めとして、世界的にも認められているスタジオジブリの作品をいくつかを分析し、そこに現れた現代文化の利点・欠点・問題点や作品の主題を探る。さらに、身近にある文化・習慣・風習を取り上げ、その成り立ちや意味を知り、そこから日本文化の根底にある思想を探っていく。これらを通して、最終的に日本文化の根底に何があるのかを考えていく。

●学習内容(授業計画)

1. 「文化」「思想」と聞いてイメージすることは
2. ジブリ作品について
3. ジブリ作品 a の文化・思想的分析①
4. ジブリ作品 a の文化・思想的分析②
5. ジブリ作品 a の文化・思想的分析③
6. ジブリ作品 b の文化・思想的分析①
7. ジブリ作品 b の文化・思想的分析②
8. ジブリ作品 b の文化・思想的分析③
9. ジブリ作品からみる日本の思想
10. 神仏と思想—自然崇拜・因果応報—
11. 文学と思想①—日本人的発想が生んだ文学作品—
12. 文学と思想②—日本人的発想が生んだ文学作品—
13. 習慣・風習と思想—ケ・ケガレ・ハレ—
14. 日本思想の根底にあるものは
15. 全体のまとめ

●準備学習・事後学習の内容

準備学習：授業計画を見て、次講義のテーマについて各々に下調べをしておく。事前課題が出された場合には、次講義までに課題をおこなっておく。

事後学習：講義後「講義内容要旨」と「自身の感想・意見」を報告書にまとめる。

●成績評価方法・基準

講義内に課す報告書の内容(各講義内容理解の観点)＝40%、最終講義時の課題(講義内容を踏まえた思考

力・表現力の観点) = 60%をもって評価する。

●テキスト（必携）

必要に応じて資料配布をおこなう

●参考文献／その他

参考文献は講義中に紹介する。

●履修上の注意

講義内容が前講義時の内容を受けつつ進んでいく連続的講義となっていることから、全講義出席を望む。また、積極的な思考をもとに報告書を書き、提出期限を守ることを求める。